

ロジスティクス環境会議
第3回源流管理による環境改善委員会 議事録

・日 時：2004年4月5日(月) 15:00～17:00

・場 所：東京・港区 芝パークホテル 別館2F アイビー

・出席者：24名

・議 案：

- 1) マニュアルについて
- 2) その他

・開 会

定刻、小西委員長により、開会が宣された。

・源流管理による環境改善委員会の活動計画案について【資料1】

小西委員長より、資料1に基づき、第2回委員会にて承認がなされた活動計画案について、説明ならびに確認がなされた。

・議事の経過

1. 議 事

小西委員長の司会進行のもと、以下のような議事が行われた。

1) マニュアルの作成について【資料2、資料3】

事務局より、資料2、資料3のマニュアル(例示)のベースとなっている、環境調和型ロジスティクス実態調査報告書中のチェックリストの概要説明が行われた。引続き、事務局より、マニュアルの構成、項目を例示した資料2、3の説明が行われた後、小西委員長より、個別項目の内容ではなく、資料3の例示をもとに、マニュアルのフレームに関する意見をいただきたい旨の依頼がなされた後、以下のような意見交換がなされた。

【意見交換の主な内容】

【委 員】小売業の立場として、物流の部分はアウトソーシングをしているため、自らの活動を管理するのではなく、アウトソーシングしている依頼先の企業と共に活動し、その活動をお互いに管理するためのツールになると思う。現在、物流の側面からは、環境対応として、共同化の推進に注力している。しかし、共同化は公共性が強く、現段階で削減効果等を数値化するのは難しいかもしれない。

【委 員】物流企業の立場として、荷主企業との関わりが現状の枠の中では、積極的に関わることが少ないことを実感している。しかし、チェックリストの中で、物流企業として、やるべきことが多数あることが良くわかった。

- 【委員】物流企業としては、鉄道、船、トラック以外で荷主企業に提供できるモードが他にないのかという視点で検討していきたい。
- 【委員】輸送距離を削減するための項目として、拠点の立地戦略があるが、その拠点を在庫型にするのか、スルー型にするのが重要な視点になるのではないかと。
- 【委員】アイドリングストップ等の各項目に対して、社内で確実に実行していくための教育体系が欲しい。
- 【委員】色々なマニュアルの項目があるが、社員教育が非常に重要である。制度だけをつくっても意味がない。物流、ロジスティクス部門、物流企業が自ら管理可能な項目にも、社員教育をいれるべきではないか。
- 【委員】各項目に対して、実行するためのステップや課題や問題点を整理しうえて、他部門等に提案していく必要があるのではないかと。また、組織として、その提案が検討され、受入れられるような仕組みになっているのか、チェックする必要があるのではないかと。
- 【委員】ステップ1、ステップ2の構成を体系的に整理したうえて、各項目を5W1Hの視点で明確にする必要があるのではないかと。
- 【委員】メーカーの物流部門の立場としては、物流機能をアウトソーシングしているため、環境負荷を低減していくために、どのような役割を担うべきなのか、明確にしていきたい。
- 【委員】メーカーの物流部門の立場から構成、項目を見ると、管理不可能な部分が多い。一方で、3PL事業者としての立場からみると、大変参考になるのではないかと。

以上のような意見交換の後、小西委員長より、以下のような確認がなされた。

- ・第4回委員会までに、事務局にて、ステップ1、ステップ2の構成、項目を再度整理した後、マニュアルのフォーマットを作成し、一部の委員メンバーに例示を作成いただく。
例示作成メンバー：3名
佐川急便(株)、別所委員(代理：須賀氏)、(株)ポッカコーポレーション、伊藤委員、明治乳業(株)、新堀委員
- ・第4回委員会では、上記の例示を踏まえ、マニュアルの構成、項目に対する意見交換を行う。

5) その他

今後のスケジュールについて

第4回委員会は、次のとおり開催することが確認された。

日時：2004年5月14日(金)15:00～17:00

会場：未定(決まり次第、ご連絡いたします)

9. 閉会

以上をもって全ての議事を終了し、小西委員長は閉会を宣した。

以上